



多職種協働で運営する認知症カフェ ～徘徊が軽減した認知症ケアの取り組み～

コンフォートガーデンあざみ野

堀口江実子

齋藤浩子

深澤優子

1. 施設紹介

1) 開設: 2006年10月1日

2) 類型: 介護付有料老人ホーム(混合型)

3) 居住者数: 121人

要支援・要介護者数: 47人

(要介護者率40.3%)

4) 認知症有病率: 16%



2. 認知症カフェの活動

予防

発症
初期

増悪時

中期

最終
段階

一日を通して認知症ケアを提供

コンフォートカフェ
2019年「*Comfort Café*」オープン



<当施設の理念>

職責を超えて

CGAのスタッフは、一人ひとりがプロとしての自覚を持って職責を全うする。

しかし、(中略)居住者様から見れば全員同じCGAのスタッフであることを常に認識し、セクショナリズムを廃し、職責を超えて居住者様お一人おひとりに向き合うこと



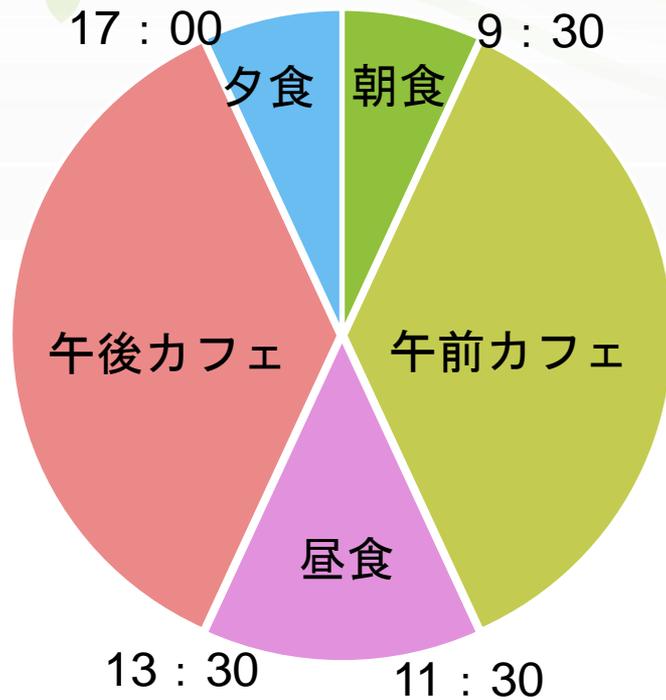
<多職種協働で運営するコンフォートカフェ>



ケアスタッフ2名、他職種スタッフ1~2名が担当
10名前後の居住者様が参加



<コンフォートカフェの過ごし方>



《一例》

- 9:30 カフェに案内・トイレ
- 10:00 補食・塗り絵・植物の水やり
- 12:00 昼食(ダイニングに案内)
- 13:30 カフェに案内・トイレ
- 14:00 入浴
- 15:00 補食・編み物
- 17:00 夕食(ダイニングに案内)

決まったプログラムはなく、自由に出入り
飲食・歌・塗り絵・植物の水やり・編み物
学習療法・休息など



<コンフォートカフェの環境>



【安心・安全】

【自己選択】



【コミュニケーションの促進】



【見当識】



【刺激の質】



3. 事例の目的

一日中施設内を徘徊し、
運動量増加に伴い体重減少を生じ、
転倒を繰り返す



多職種協働で運営する認知症カフェが
有用な認知症ケアかどうかを検証する



4. 事例紹介

【対象者】 I様 89歳・女性（要介護4）

11年前にご夫婦にて当施設に入居

【主疾患】 アルツハイマー型認知症

【既往歴】

83歳変形性脊椎症、胸椎12番圧迫骨折

87歳慢性硬膜下血腫



5. 事例の問題点

2019 年ご主人様の逝去



①一日中昼夜問わず館内を徘徊

②運動量増加に伴う体重減少

③度重なる転倒



6. 介入の経過

2019年

オセロ、
飲食

2020年

オセロ、
飲食

2021年

オセロ、
飲食、DVD鑑
賞、休息

2022年

飲食、オセロ、
休息、植物の
水やり



滞在時間45分程

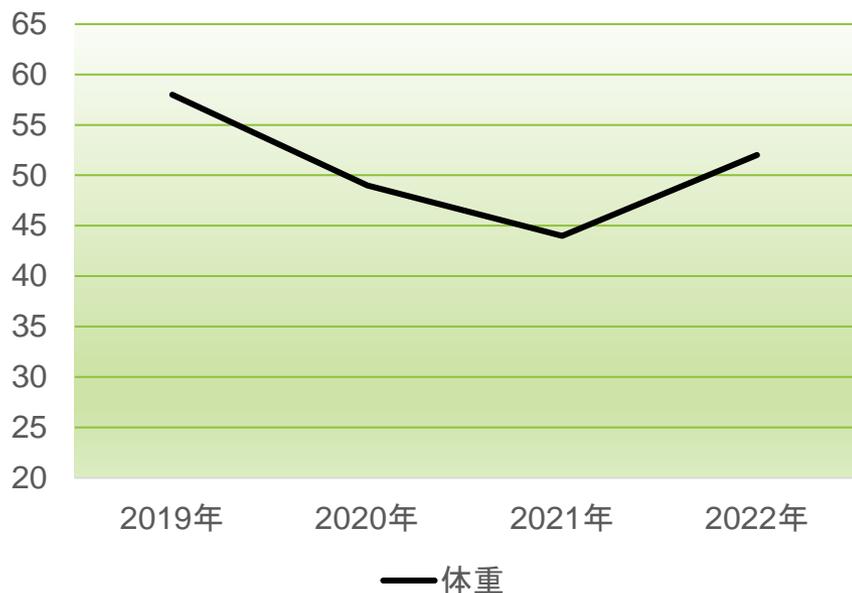
滞在時間2時間半程

7. 結果(1)

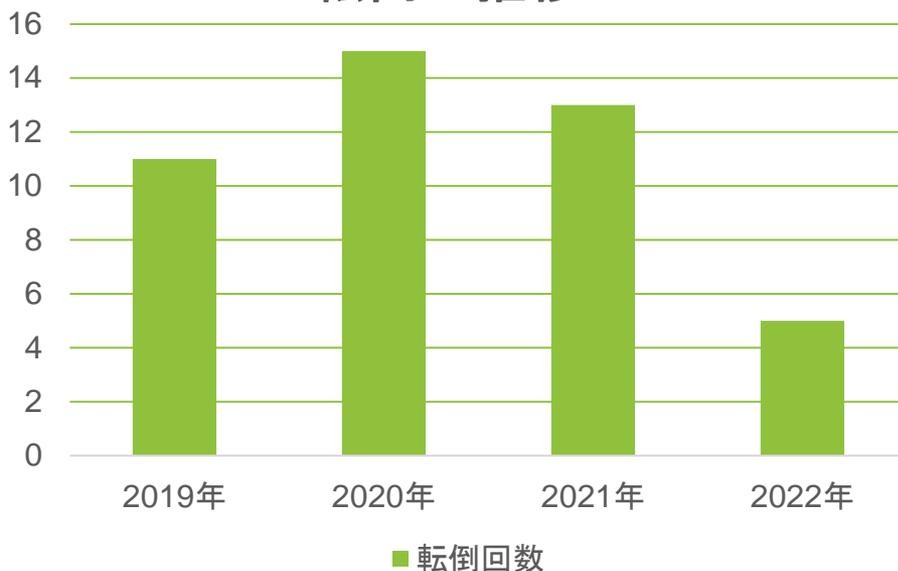
全部署で構成されている
居住者連絡会議で情報共有を図る



体重の推移



転倒の推移



2021年44kg⇒2022年52kg

2020年15回⇒2022年5回



7. 結果 (2)

観察スクリーニングの改善

NPI (認知症の行動・心理症状の頻度・重症度)

初回

8点

2年後

3点

DBD (認知症行動障害尺度)

初回

24点

2年後

14点

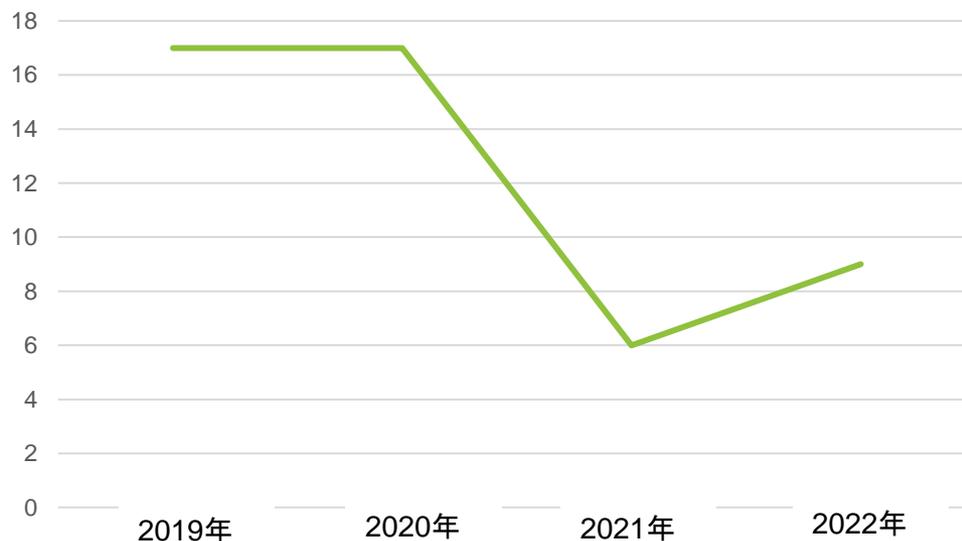


7. 結果 (3)

紙面スクリーニングの改善

MMSE

MMSE変化



2021年 6点 ⇒ 2022年 9点



8. まとめ

一か所にとどまることができず、
共用部を歩き続ける状態

多職種協働で運営する認知症カフェの利用



統一したケアの提供により徘徊の軽減



9. 考察

多職種協働で運営する
認知症カフェの活動



1日を通して認知症の容態に応じた
適時・適切なケアを提供



「認知症ケア」として有用な取り組み





ご清聴ありがとうございました

